

古民家の野外博物館

# 日本民家園だより

昭和61年度第1号

《通号第4号》

発行 61・7・1

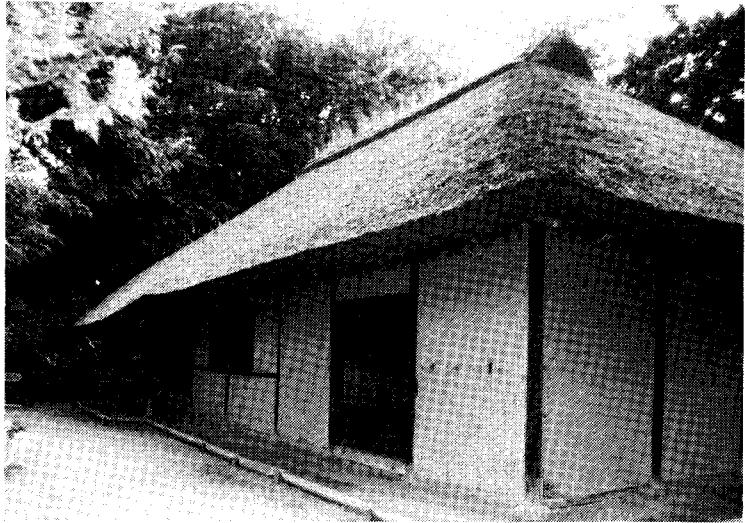
川崎市立日本民家園

川崎市多摩区耕形 7-1-1

電話 (044) 922-2180-1

## 閉鎖的で單純な外觀をもつ旧清宮家住宅

- ・神奈川県指定重要文化財
- ・旧清宮家住宅
- ・四方下屋造寄棟茅葺
- ・平面積 102 M<sup>2</sup>  
(31坪)
- ・旧所在地 川崎市多摩区登  
戸3075
- ・昭和40年9月 清宮 一男  
氏より川崎市に寄贈
- ・昭和40年12月 解体移築に  
着手
- ・昭和41年3月 移築完成
- ・昭和46年3月 神奈川県指  
定重要文化財に指定



旧清宮家住宅

### ◎約300年前の農家

この住宅は清宮一男氏の家を移築し、建築当初の姿に復原修理したものです。全体の間取りやつくりからみて建てた時期は江戸時代でおよそ300年位前の民家と思われます。

家の大きさは桁行(けたゆき)7間半、梁行(はりゆき)4間で、当時では大きな民家に属し、上層農民の家と考えられます。

日本の古民家を間取りによって分類すると、「二室型」「ひろま型」「四つ間または田の字型」などに分けられますが、この住宅は「ひろま型」の一種とみてよいでしょう。なぜかといいます

と、間取りは桁行を三分し、東3間を土間、中央2間半を「ひろま」と裏部屋、西2間を「でえ」と「へや」にとり、「ひろま」を中心とした間取りになっています。

### ◎見所

- ・外観に壁の部分が多く、軒の低さに特徴
- ・「土間」の上部の縦横に組んだ曲がりくねった梁組み
- ・床上と土間境の腰板壁の格子窓
- ・「ひろま」の裏部屋・「ひろま」北側押板
- ・「ひろま」に置かれた車長持

# (園の動き)

## □日本民家園まつり<4/29～6/11>

「まつり」期間をやや長くして多くの行事を実施。

- ◊園行事写真展 ◊民具展示 ◊古民家のみどころ
- ◊こども写生会 ◊手づくり民具 ◊文化財映画会
- ◊民俗芸能大会 •権現太鼓（相模湖町一かながわ50選一）  
(第19回) •沖縄舞踊 •丸子祭り囃子  
•菅（初瀬）祝い唄



## □民家に学ぼう会<6/22・29>

（春季講座）

- ◊園内21の物件の中から、特徴のある民家について  
基本的な事柄や見方などをわかりやすく学習した。  
なお、秋（10月19・26日）にも講座を開設いたします。

～民家園まつり～  
<手づくり民具製作>



<権現太鼓—相模湖町—>

## 9月までの行事案内

### □夏休み郷土学習講座 <8/2・3> (小学4年～中学生向)

- 申込 7月20日から電話で、25名まで参加無料
- 内容 石仏の調べ方、日本の家を考える等



心な協議がされました。

### □第1回日本民家園協議会 <6/6>

園の今までの歩み、旧山田家住宅復原による見学・説明そして、今後の博物館としてのすすむべき方向などについて、委員による熱

### □親と子の手づくり教室 ①

<8/17>

- 申込 8月3日から電話で、先着20名まで
- 内容 「竹細工」（水てっぽう・オシボリおき）
- 教材費 300円（当日納めてください。）

### □親と子の手づくり教室 ②

<9/14>

- 申込 8月31日から電話で、先着20名まで
- 内容 「十五夜」の粉ひき（石臼で）と自分の手でダンゴを作ってみます。
- 教材費 300円（当日納めてください。）

### □年中行事展示 <7月> 七夕まつり（マンガ洗い・短冊作り）

<8月> 盆行事（オショウロウダナ）

<9月> 文化映画会 ①10:30～ ②13:30～ 白川郷の家 <9/28>

# あなたも作ってみませんか ~民技会からの お誘い~

園のトンネルを抜けると、千葉県九十九里浜のもと網元の家「作田家」がある。日曜日には、民技会（民具製作技術保存会）の会員が、軒下や庭先でムシロを敷いて、昔なつかしい民具を作っている風景に出会います。このメンバーが皆さんに、「ワラ細工」を手とりして教えてくれます。どうぞ、ご家族でおいでいただくようお待ちしております。

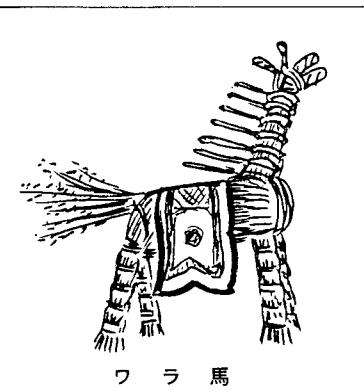
とき 61年8月24日（日）午前10時～3時

参加費 無料～作ったものはお持ち帰れます。

内容 ワラ馬・ナワの犬・ゾウリ・ワラジ  
(図を参考にして下さい。)

## □ワラ馬

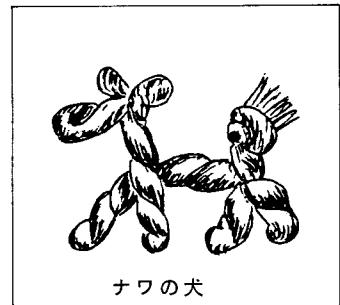
長野・新潟県などのお土産にみられる、ひなびたワラ馬です。  
30分もあればできますので、ぜひ、ひとついかがでしょう！



## □ナワの犬

細い縄一本だけで作れる犬です。

縄のヨリを戻して足や首、耳などを作ります。  
うしろの足をチヨットあげているところが可愛らしいのです。



ナワの犬

## 会員行事の御案内

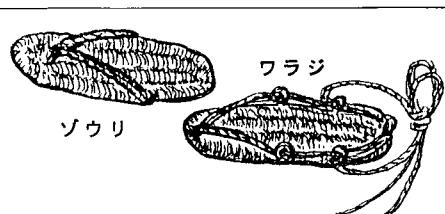
ご覧になるのは自由です。昔の思い出話など、お気軽に話かけてみてください。

7／13, 8／10, 9／14 みのづくり

7／20, 8／17, 9／21 竹のザル・花カゴ

7／6, 8／3, 9／7・21 はたおり

◆民技会へのお問合せは、民家園事務所まで



## □ゾウリ・ワラジ

これに挑戦する方は、少し時間が必要です。  
縄をなう経験のある方なら作れます。

ゾウリ（足の指に狭んで履く）とワラジ（紐で足に結びつける）図を見て、混同しないでくださいね。



出口にある「投票箱」が、皆様のご意見・ご感想を心からお待ちしております。

◆当時の生活様式・家族制度をもう少し詳しく案内板に加えてください。 (35才女性)

◆各部屋の独特的な名前(例「でい」「おえ」)とその意味を説明してほしい。 (55才男性)

◆船越の舞台下の廻り舞台を早く見せてほしい。  
また古い物がよく残っていると感心させられて  
しまいました。 (11才の女の子)

## 園からのコメント

重根石の秋穂皮草の季子の

◆古民家・民具・生活様式などに関する解説方法をどのようにしたらよいか、検討したいと思います。

◆舞台の地下照明もようやく完成しました。早く見学ができるように安全管理の面も含めて考えてまいりたいと思います。

投書ありがとうございました。

## 秦野地方のお盆行事 ツジ(砂盛)

お盆の語源は、仏教の盂蘭盆(ウラボン)からきているとされています。農村では、田植えなどの関係から、ひと月おくれの8月に行う場合が多いようです。お盆の行事は、13日の夕方に迎え火を焚き、精霊をお迎えすることから始まります。盆棚を作り、精霊が集まるよりどころとして、ナスやキュウリで作った牛・馬を乗り物として飾り、お迎え用とします。

また、盆棚の下側(棚下)にも、供物を置きますが、これは無縁仏の供養のためのものです。

秦野地方では、お盆の13日になると屋敷の入口あるいは、屋敷前の道端に30~40cm四方で高さ20~30cmくらいに土砂などを盛り、固めて土壇を作ります。これをこの地方では、「辻(ツジ)」とよんでいます。「辻」に線香を立て、竹筒を立て花をさしたりして、傍で迎え火・送り火を焚く習慣があります。

ところで秦野では「ツジ」とよばれていますが「スナモリ」とか「ツカ」という名称で呼ばれる場合もあるようです。

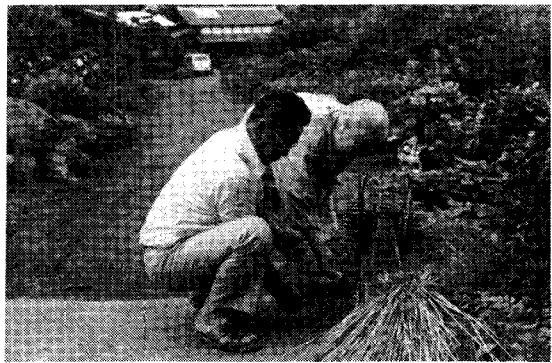
また、特別な呼び名もなく、これに類するものを作って盆行事として飾る場合もあります。

このツジ(砂盛)は、全国ではほとんど見られない習慣のようで、わずかに静岡県の御殿場、伊豆地方、東京三多摩地方から秩父方面にかけて、この例が見られます。

お盆が終ると自然に壊れるのにまかせている。

ツジですが、なぜこのツジ(砂盛)が作られるようになったかは、今のところ不明です。

《この話は、旧北村家住宅を寄贈された北村一平さん宅にて現地取材したものです。》



北村さん宅のお盆<ツジ>

## ≈ご存知ですか≈ 多摩川の産んだ船頭小屋

園内の古民家めぐり「神奈川の村」旧清宮家の前の四ツ辻に、「渡船場」と障子に書かれた小屋があります。そばには河川はありませんが、ひなびたこの船頭小屋はなぜか人の心を和ませてくれます。多摩川の中流、菅のあたりの渡し場にあって夜は宿泊所、昼は見張兼休憩所として、ついこの間まで使われていました。昭和48年京王相模線の開通で、終止符を打ちましたが、かつては東京方面から生糸・炭の買い出し商人や旅芸人が来川するため、川崎方面からは、大工・左官屋などの職人が上京するため、この「渡し場」は活躍しておりました。



昭和49年から園に保存されていますが、4ヶ所に鉄輪がついています。これは大雨で川が増水し、流失を防ぐために移動用小屋ともなったのです。図のように丸太を差し込んで担いで今日まで生命を保つことができました。

『編集後記』  
第4号をお届けいたします。  
民家シリーズは、復原順に掲載してまいります。  
園では、皆様の声をお待ちしております。ご希望・ご要望何でも結構です。ぜひお寄せください。